

平成 28 年度 U-32 ヤングオフィシャルキャンプ 参加報告書

- 日 程 : 平成 29 年 1 月 7 日(土)～平成 29 年 1 月 9 日(月・祝)
- 場 所 : 国立代々木競技場第一体育館・会議室 他
- 参 加 者 : JBA 推薦・男女トップリーグ担当者の中で 32 歳以下の者(男性 2 名/女性 3 名)
ブロック推薦・各ブロックより推薦を受けた 32 歳以下の者(男性 21 名/女性 4 名)
- 目 的 : ①早い段階から国際審判資格取得のモチベーションを高める。
②早い段階から国内 TOP の GAME、審判・分析等に触れる機会を持つ。

【第 1 日目】 1 月 7 日(土) 国立代々木競技場第二体育館・会議室

13:30～14:00 開講式・・・阿部哲也氏

14:00～14:40 講義①

- ・審判「早期育成」について・・・平育雄氏
- ・「ガイドライン」解説・・・宇田川貴生氏/安西郷史氏

15:00～16:40 全日本総合バスケットボール選手権大会女子準決勝 観戦 (JX-ENEOS vs トヨタ自動車)

17:00～19:00 講義②

- ・試合観戦後ディスカッション・・・宇田川貴生氏
- ・3PO メカニクス・・・上田篤拓氏

まず、平氏より本研修の目的として、早い段階から国際審判資格取得のモチベーションを高めること、そして早い段階から国内の TOP GAME に対応する審判の環境、TOP GAME に対応するガイドライン、メカニクス、判定、映像解析に触れることが確認された。また、今後の国際審判資格取得のシステムが変更となることが伝えられ、FIBA から各国に人数制限が与えられること、2 年更新であることなどの説明があった。今後は限られた人数制限の中で、国内でセクションされ FIBA に推薦されるために各自が漠然とした目標を持つのではなく、どのような具体的な計画をもとに活動するかが重要であること、そして審判だけが上手くなればそれでいいのではなく「人として」どのような評価をされ、どのように周りから見られているかを常に意識し、奢らず謙虚な姿勢でいることの重要性も伝えられた。

次に宇田川氏より国内 TOP LEAGUE において運用されているガイドラインについての解説があり、ガイドラインがどのように現場で運用されているかを考えながら GAME を見るようにとの意識付けがあった。ガイドライン導入においては、ルールブックに記載されている条文の適用をそれぞれの審判が共通認識を持つことで、判定の「グレーゾーン」を無くす意味合い、コーチや選手に対して何を吹いたのかを伝える説明が明確になること、審判、コーチ、選手がファウルに対しての共通認識を持つことができる利点があることが共有された。

試合観戦後のディスカッションではポストプレイに対しての手の使い方やシューターへのブロックについてのプレイをルールブックに照らし合わせ、そのプレイがリーガルかイリーガルかの検証がおこなわれた。何気なく使ってしまう「何となく嫌だ」という表現がディスカッションでも出たが、審判の説明責任として何となくではなく、その判定をどのようにして説明するかが重要でありその答えはいつもルールブックにあることが再認識された。

上田氏からは 3PO メカニクスについてのレクチャーがあり、審判の共通言語の解説やその意味、3PO メカニクスの基本原則、プライマリエリア、アングルの考え方、それぞれのポジションが意識すること、しなければいけないことが確認された。また、試合の映像を見る時にただ判定があっていた、間違っていたの議論に終わらず、メカニクスはどうだったのか、ポジションはどうだったのか、ルールの適用はどうだったのかを常に考えることが重要であるということも確認された。

【第2日目】 1月8日(日) 国立代々木競技場第一体育館・会議室

9:15～11:15 FADP 国際審判研修講義 聴講・・・橋本信雄氏/内海和秀氏

12:00～14:00 全日本総合バスケットボール選手権大会男子準決勝 観戦 (A 東京 vs 川崎)

15:00～17:00 講義③

・映像研修・・・片寄達氏/上田篤拓氏/担当審判員：宇田川貴生氏/北沢岳夫氏/加藤誉樹氏

17:00～19:00 全日本総合バスケットボール選手権大会女子決勝 観戦 (JX-ENEOS vs 富士通)

午前には FADP 国際審判研修講義を聴講。内海氏からリオオリンピックを終えての所感を橋本氏がインタビュアーとなり質疑応答形式で進められた。世界で感じたレフリングについての内容はとても興味深く、特にリバウンドを取った後、バランスを崩しているプレイヤーに対してボールを取りに行くこと国内ではヘルドボールの判定が多いが世界はほとんどファウルとして取り上げられることやスクリーナーがリーガルにスクリーンをセットしていてもディフェンスが当たってスクリーナーがよろけるとリーガルスクリーンを取られてしまうケースがあったことが印象として残った。

午後からは観戦をした試合の映像を見ながら担当審判とともにディスカッションがおこなわれた。試合内で起きた事象について映像を使い、それぞれが自分なら現場で何をするか、そしてそのケースで何をすればよかったのか、ルールの適用はどうだったのか、クルーのそれぞれの役割は何だったのかを、解説を交えながら意見交換をおこなった。場合によってはクルーで集まり持っている情報を共有、再開の方法、それぞれの役割を整理してから正しく試合を再開することの重要性が再認識できた。

【第3日目】 1月9日(月祝) 国立代々木競技場第一体育館・会議室

10:00～10:30 講義④

・映像・語学・・・上田篤拓氏

10:30～11:45 講義⑤

・映像・プレイコーリング・・・宇田川貴生氏/片寄達氏/上田篤拓氏

12:00～12:30 閉講式・・・阿部哲也氏

14:00～16:00 全日本総合バスケットボール選手権大会男子決勝 観戦 (川崎 vs 千葉) ※希望者のみ

最終日は語学研修として、映像を見たのち、そのプレイについての判定やルールの適用を英語にて筆記をおこなった。また、3分間の自己紹介を英語でおこない、パートナーがそれをメモするという内容の研修もおこなわれた。これらの研修では英語について触れる機会を増やすこと、毎日少しでも英語でその日の出来事を表現できるようにトライすること、自分の得意なトピックを準備することで会話のイニシアチブを取ることの重要性を感じた。また、これらはいざ国際審判員となり海外に出た時に審判同士のコミュニケーションを円滑にできるようすることに繋がっており、必ず習得しなければならない事柄であると感じた。

片寄氏からは試合に対する準備について、BLG のプレゲームカンファレンスで使用した資料を元に準備のポイントを共有していただいた。片寄氏のテーマとして全てを「把握」するためにどんなことをクルーで取り組むかを共有してから試合に向かう姿勢は、ゲームの商品価値を高めるためにとても重要なことであると感じた。

本プロジェクトに参加して

今回初めて本研修会に参加させて頂き、3日間とても有意義な時間を過ごせたと感じた。世界のレフリングの話や TOP GAME を担当されている方々のお話を生で聴くことは中々できない経験である。これを今後の自分の財産として、この3日間で学んだことを体現し、それが地元への還元につながるように活動していきたい。そして日々できる限りの準備をおこない、選手、コーチ、観客、全ての関係者のために「いい試合」の一部になれるように自分自身を磨いていくことを改めて決意した。

最後になりましたが、本研修の参加にあたり、ご推薦をいただきました日本バスケットボール協会、所属ブロック長、審判員長をはじめ、関係の皆様へ感謝申し上げます。そして本研修開催に対しましてご準備、ご尽力を頂きました日本バスケットボール協会審判部の皆様、講師の方々、学生連盟の方々には、様々なご準備、当日の運営、多大なるお気遣いを頂きましたことをこの場を借りて御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

以上